商家の年中行事

年中行事とは、毎年決まった時期におこなわれる行事のことをいいます。昔からずっと続いているものや、新しく加わったものもあります。

例えば、お正月や節分、おひなまつり、子どもの日は、1200 年以上前のずっと昔から続いています。江戸時代から四谷の町に住んでいた野口さんもこれらの行事を行っていました。野口さんちの記録にはありませんが、七夕まつりもそうですね。新しいものでは、クリスマスやハロウィン、イースターなど外国からやってきた文化を取り入れた行事もたくさんあります。普段行わなくなった行事や新しい行事など、時間の流れとともにいろいろ変化しているのですね。

では、野口さんちの 1 月 1 日の年中行事を少し見ていきましょう。

1 月 1 日

福茶をのむ

福茶は、ちいさい梅を塩につけたものと炒った大豆をお茶にいれたものです。地域によって中に入れる物はちがうようで、こんぶが入っていたり、さんしょうが入っていたり、いろいろあります。1 年間元気でけがなどしませんようにと願ってのんでいました。今は福茶をのんでいる家はとても少ないようです。

福茶

お屠蘇をのむ

お屠蘇は、1 年間のいやなことを払い、長生きを願ってお正月にのむお酒です。お酒の中に薬草などが入っています。

雑煮をたべる

野口さんちの雑煮は、おもちと小松菜だけでシンプルです。雑煮は、全国各地様々なものがあります。調べてみるとビックリしますよ！

雑煮

正月料理をたべる

おせちは、めでたい料理ばかりです。紅白のかまぼこは、赤は魔除け、白は清浄をあらわしています。伊達まきは、巻物（いまの本）に似ていることから、文化・学問などの知識をたくさんもてるように願っています。黒豆は長生きと健康、こんぶは、「よろこんぶ！」などの意味があります。いまでは、中華料理や西洋料理のおせちもあり、たくさんの種類がありますね。

このほか 1 月には、7 日に七草粥を食べ、夜に爪を切ります（この年の初切！）、門松の芯だけ残してはずしたり、11 日は、鏡開き（包丁は使わないで、鏡餅を「はし」などでばらばらにします）、15 日にはあずきがゆを食べます。

伊達巻

地域によっても食べるものや飾るものは違います。ただ、共通していることは、1 年間いい年になりなすようにとお願いをしていることです。1 年のはじまりの日は、お願いがいっぱいですね。みなさんの家ではどうですか…？